

## 「私が大事にしたいこと」

榛原中学校 小倉 安姫子

4月から今まで、授業での子どもたちとの関わりを一番大事にしてきました。理科嫌いが増えている中、理科は楽しいと思ってもらえる授業づくりを心掛け、奮闘してきました。その中で、自分が何を学ばせたいかを考えることも大事ですが、子どもが何に疑問を持ち、学びたいと思っているかに目を向けることが大事だと気づくことができました。日常生活で疑問に思っていたことがわかったとき、学ぶ中でわからなかったことが理解できたときの子どもたちの反応や表情を見るのが何よりも嬉しく、幸せな瞬間だと感じます。まだまだ力不足でうまくいかないことばかりですが、目の前の子どもたちと本気で向き合い、お互いに成長していきたいと思えます。



## 「個性を大切に」

奈良南高等学校 山本 夏生

高校の教員になるという夢が叶い、4月から教員生活が始まりました。私の高校時代とは全く異なる生活を送る生徒に対し、初めは戸惑いを強く感じました。高校生ならこうあるべきだという固定観念に縛られていたのかもしれない。しかし、日々共に過ごす中で、どんな生徒でも必ず成長する時があるということ、勉強や部活、行事など輝く場面はそれぞれ違い、違って良いのだということ学びました。

生徒一人一人の個性を大切に、それぞれの良さを最大限に伸ばすサポートができる教師でありたいです。



## 「子どもたちと共に歩む」

奈良養護学校 中垣内 徹

4月から、奈良養護学校に赴任となり、最初は期待と不安でいっぱいでした。初めてのことで、毎日戸惑うことも多かったですが、日々の関わりの中で子どもたちの小さな変化に少しずつ気が付くことができるようになってきました。また、先輩教師からのアドバイスや校内研修等を受けることで、子どものことをより知り、どのような支援や手立てが有効なのか、深く考えて関わるようになってきています。

日々自分自身が学び続けることが子どもたちの笑顔を引き出せる最大の努力だと思ひ、これからもこの姿勢を大切にしていきたいです。



## 「子どもたちの笑顔のために」

天川小中学校 栄養教諭 西本 柊二

着任当初は安全安心な給食の提供に精一杯で、子どもたちとあまり話せない日が続きました。このままではダメだと感じ、子どもたちとの時間を見つけてかわわりを大事にすると、子どもたちから声をかけてくれるようになりました。「苦手でも食べようとする姿がすごいステキ!」「こんなにも食べられたのすごい!」と子どもを信じて声をかけ続けると、「先生がいてくれたら頑張れる」「応援してくれたから苦手な食べ物が食べられるようになったよ」という言葉をもらうことができました。しんどい時はその言葉を励みに頑張っています。子どもたちの生きる力を育みつつ子ども自身の力を信じて、これからも共に歩いていく教員でありたいと思えます。

